

活動報告

会員ライフサポート部所感 ~平成26年度研修会&交流会に参加して~

会員ライフサポート部 石田輝樹さん

会員ライフサポート部 活動報告 第50報 職場環境を考える

会員ライフサポート部の部員に加わりました!

昨年の11月から会員ライフサポート部に加入させていただいた石田輝樹です。

普段の勤務は(株)リカバリータイムズ代表取締役としてリハビリ特化型デイサービスに従事しています。わたしが会員ライフサポート部に関わりたいたと考えたきっかけ。

それは、当施設で働く事になったママさん介護士が面接の際に話してくれた事、

「少しでも社会との関わりを持ちたい」

この一言がきっかけでした。

「そうか。子供を産んでから、職場を一度離れて、復職するにはたくさんのハードルがあるんだな。」と感じると同時に、せっかく人のために働きたいと考えて、資格をとったのに、その資格を生かした仕事ができている事とはとてももったいないと感じていました。

「女性が働きやすい環境をつくっていききたい。」

少しでも僕が何かできる事はないか?という思いで関わりはじめました。よろしくをお願いします。

平成26年度会員ライフサポート部主催 研修会&交流会に参加して

平成26年12月21日に今年度の復職支援事業の今さら聞けないシリーズ研修と就業継続に関する問題について自分の悩みから話をしながらの交流会が開催されました。

参加者の年代は20-40代で、年代も性別も万遍なく24名の参加がありました。託児室は2歳~6歳のお子様6名が利用されました。

今さら聞けないシリーズ5

「生活期に関わるPTのためのリスク管理~事例を通して~」

講師：大森豊先生

(訪問看護リハビリテーションネットワーク)

大森先生の話聞いて感じた事は、生活期では人とどのように関わっていくかが重要であるとの事でした。急性期では、「疾患」を中心にみていきます。もちろん、この時期はそこをしっかりとみていく事がとても大切です。

しかし、生活期になってからは、疾患を有する「人」をみていく事が中心になります。「人」に対して、生活にどのように適応しているのか、そして利用者さんに関わる僕らは、理学療法士としてだけでなく、「人」として人間力を問われるんだなと改めて感じました。

交 流 会

会員同士の交流会では、年代ごとに4~5人のグループに分かれ、それぞれの職場で困っている事を話していました。

私が参加した40代女性のグループでは、次のような声が聞かれました。

- ・子供の体調不良で休む事がある時、スタッフにあまり理解してもらえない。
- ・病児保育という環境があれば、働きやすいのに。
- ・今は子供が病気になると、休みをとる以外に解決策がない。
- ・若いスタッフもいつかは我が身と思って理解がほしい。
- ・働く母が多い職場だと助け合いが多く働きやすい。等、職場環境の事であったり、
- ・将来的に復帰した時のためにアンテナを張っていたい。
- ・現在の訪問リハと子育ての両立の環境を知りたい。等、今後どうやって復職していくのかであったり、
- ・PTの職域はどこにあるのか?
- ・小児リハビリも不足している。
- ・1万人もいる中、自分のポジション、専門性がないと生き残れないのか?等、職域に関する事等、多岐にわたりました。

一人一人の価値観が違う。

だから選ぶ選択肢もまちまち。

だから希望しているニーズもまちまち。

だから託児所があればいいわけではない。

じゃあどうすればいいのか?

一つだけ、

みんなが無意識に考えている共通の思いがありました。

それは「私は復職できるのかな」という漠然とした不安です。

結婚や出産など、さまざまなライフワークイベントが理由で、退職あるいは休職した後にお母さんたちが復職したというモデルがとても少ないのではないのでしょうか。だから、復職のイメージを持ちにくいのではないのでしょうか。

今回の研修に参加して感じた事は、実際に復職されている人の「モデルケース」を見せていくこと。「こうやって復職する人がいるんだ。」「私にもこれならできるかも。」を感じてもらえる事が大切なのではないかと思います。

会員ライフサポート部は実際に復職した人と知り合える、話し合える場所として、そして、実際に働きたいと思う気持ち分、実際に働ける環境や研修先を整えていく事が重要だなと感じています。

